

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果

様式1(高等学校)

学校名	佐賀県立牛津高等学校
1 前年度 評価結果の概要	・ アンケート結果によると、生徒の社会性の高まりが確実にみられた。地域と連携した活動への取組を強化させたことが結果に結びついたと考える。次年度はこれらの活動をより深化させ、生徒の主体性伸長へとつなげたい。 ・ 地域と連携した活動は、生徒の地域への関心を確実に高めている。引き続き、参加する生徒の裾野を広げるとともに、地域の課題発見・解決について思考を深め地域活性化にさらに意欲的に取り組めるよう、行政機関等と連携しながら具体的活動を考えたい。 ・ 学校魅力強化委員会においては、本校の教育活動等について熱心に議論がなされた。次年度は、魅力強化のための具体的なプロジェクトチームを設定し運営していくスタイルも考えていきたい。

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○県内唯一の家庭科専門校として、衣・食・ヒューマンサービスに関するスペシャリストを育成する。 ○生活の質の向上に関する専門的知識や技能を生かし、地域と様々な協働しながら、学校及び地域のさらなる活性化を目指す。
----------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標	・ 互いを認め、支え、高めあう学びのサイクルの構築 ・ 生徒の主体性伸長の支援 ・ 生徒の進路希望実現につながる教育の質の向上 ・ 地域と様々な協働しながら、学校及び地域のさらなる活性化
	①生活の営みに関することに興味があり、専門性の高い学びに取り組みたい生徒。 ②何事にも積極的に挑戦し、学び続ける意欲のある生徒。 ③思いやりを持ち、他者や地域のために役に立つことをしたい生徒。	①3年間を通して、衣生活、食生活、ヒューマンサービスに携わるスペシャリストからの指導を受けることで実践力を養います。 ②学校設定科目である「起業家入門」において、地域企業等と連携して商品やサービスの開発をおこない、発想力や企画力、表現力を磨きます。 ③「総合的な探究の時間」や「課題研究」において、地域と協働しながら、将来の自分の在り方・生き方を見据える活動に取り組みます。 ④職業人として必要なスキルや、豊かな人間性を育むために、就業体験やボランティア活動を充実させます。 ⑤ファッションショーや音楽劇、食事（松花堂弁当等）や服飾作品（草木染や佐賀錦作品等）の販売など、日頃の学習の成果を地域に発信する機会を設けます。	・教科や学科を超えて相互に授業見学を実施する。 ・各科で「主体的・対話的な授業の実践」に向けて評価の観点を年度当初に確認し、互いの授業参観の機会を利用して授業の工夫や改善について考える機会を持つ。 ・「基礎力診断テスト」のデータを分析した情報を職員間で共有し、課題の指導を行う。 ・「ホームプロジェクト」「課題研究」「起業家入門Ⅰ・Ⅱ」をはじめとしたすべての授業を通して起業家マインドの育成を図る。	①牛津高校で得た生活に関する専門的知識と技能を、人々の豊かな暮らしの実現のために生かすことができる人材を輩出します。 ②生活や社会の様々な問題解決に向けて、他者と支え合いながら考え行動する力を培います。 ③地域社会の活性化に貢献するために必要な、主体性や表現力、創造力を育成します。	

5 重点取組内容・成果指標						最終評価	主な担当者
(1)共通評価項目						最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果		
●学力の向上	○アクティブラーニング型の授業やICT機器を活用した授業の推進による学習習慣の定着 ○基礎学力の向上 ○起業家マインドの育成	○アンケートで「学校で行われている授業で自分は主体的に取り組んでいる」「自分は、授業以外の学習や校外学習を主体的に行っている」「誰かに言われなくても自分から学習する」と答えた生徒を80%以上にする。 ○学力診断テストの学習力レベルが前年度より向上する生徒を70%以上にする。 ○「起業家マインド(企画力、発想力、プレゼン能力など)が身につけている」と肯定的に答えた生徒65%以上	・教科や学科を超えて相互に授業見学を実施する。 ・各科で「主体的・対話的な授業の実践」に向けて評価の観点を年度当初に確認し、互いの授業参観の機会を利用して授業の工夫や改善について考える機会を持つ。 ・「基礎力診断テスト」のデータを分析した情報を職員間で共有し、課題の指導を行う。 ・「ホームプロジェクト」「課題研究」「起業家入門Ⅰ・Ⅱ」をはじめとしたすべての授業を通して起業家マインドの育成を図る。	B	・アンケートでは「授業に主体的に取り組んでいる」と答えた生徒は90.4%と高い割合であるが、「家庭学習の習慣が身に付いている」と答えた生徒は54.4%であった。 ・基礎力診断テストでは全体の学力レベルは前年と同じであり、70%以上の生徒の学力向上は達成できていない。基礎学力を身に付けさせるような取り組みが必要である。 ・学校評価アンケートの結果から、「起業家マインド(企画力、発想力、プレゼン能力など)が身につけている」と肯定的に答えた生徒の割合は61.1%で目標に届いていないが、2年生は66.3%、3年生は67.9%と成果指標を超えた。	教務主任 各教科・学科主任 進路指導主事	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校では豊かな心を育成する教育が行われていると答えた生徒90%以上 ○「他者を理解し、思いやりをもって人間関係を形成できた」の質問に対して「分からない」の回答率減	・性に関する指導、薬物乱用防止、佐賀を誇りに思う講演等を実施する。 ・生徒会等を中心にクラスで話し合う機会を学期1回実施する。	A	・予定していた3回の講演を実施することができた。 ・学校評価アンケートの結果、「薬物乱用防止、佐賀を誇りに思う講演など、豊かな心を育成する教育が行われている」との項目に対し、「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合は、生徒(96.2%)であり、講演会などの取組は効果を出していると考えられる。ただ、保護者はよくわからないが(24.4%)と高い割合にあることから、学校で行っている教育活動の様子を学校HPなどを用いて今後さらに発信する必要がある。 ・学期ごとにクラスミーティングを実施し、日々の生活の振り返りを行い、地域に愛される牛津高校生としての在り方を考えることができた。	教務主任 保健主事 生徒指導主事	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの早期発見・早期対応に積極的に取り組んでいると回答する生徒・保護者の割合が70%以上。 ○いじめの一定期間内での解消100%。	・学校生活アンケートを年間2回実施し、組織的にいじめの早期発見・早期対応を行う。 ・問題が発生した場合は、迅速に対策会議を開催し、組織的な対応を行う。	A	・学校評価アンケートの結果、生徒81.7%、保護者80.4%が、「学校では、いじめを許さない教育が行われている」と回答した。 ・年間2回の「学校生活アンケート」等により、いじめの認知件数及び認知件数は数件であった。認知及び認知後、関係職員による迅速かつ正確な情報共有、組織的な対応により、重大事案には至っていない。なお、認知案件は全て解消、認知案件については、調査、聞き取り、経過観察を行い、現段階では、特に問題となるようなことはない。いじめは、いじめ防止対策推進法が示すように、人権侵害であり、犯罪行為である。このことを、生徒、保護者、教職員などが認識するとともに、記憶に残る啓発活動を今後も継続していきたい。なお、SNSによるいじめ案件への対応のため、専門家(警察やスクールロイヤー等)による講演会も適宜実施していきたい。	教頭 学年主任	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○ほぼ毎日(週に5回以上)朝食を食べている生徒の割合を85%以上にする。	・朝食の大切さについて、保健だよりで発信する。 ・食に関するアンケート調査を行う。 ・家庭科の授業と連携し、望ましい食習慣について考える機会を持たせる。	A	・10月と11月の保健だよりで、朝食の大切さや一日を通して栄養バランスの取れた食事を摂ることの重要性等を生徒に伝えた。 ・学校評価アンケートの結果、「自分(生徒)は、朝食をきちんと食べるなど、食習慣や食の自己管理ができている」の項目に対し、「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合は、生徒(87.8%)保護者(90.2%)であった。これらのことから、生徒の食習慣や食の自己管理は概ね出来ていると考えられる。 ・1年次の「家庭基礎」「家庭総合」の授業の中で、望ましい食習慣について理解させることができた。	保健主事	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。定時退勤日を週1日以上設定することや、長期休業中に学校閉庁日(4日以上)を設定すること。また、職員朝礼の短縮化(朝礼時間を5分程度とする)を実施する。部活動休業日については、原則週2日以上設定する。また、時間外在校等時間が45時間を超える職員数を、月平均10名以下にする。さらに、職員の平均年休取得日数を12日以上とする。	・定時退勤日を設定しやすいように、行事を精選する。 ・8月10日(土)から8月31日(土)までは、学校行事等を減らし、学校閉庁日等と併せて、休暇を取得しやすい環境を作る。 ・日報を充実させて、職員朝礼時の説明事項を削減する。 ・ICT利活用を推奨すると共に、業務や行事の見直しや、業務の平準化を行い、職員の業務負担を軽減する。	A	・9月から1月において、職員の時間外在校等時間の月平均は、24.9時間(昨年度28.9時間)、時間外在校時間等が月45時間を超える職員は、延べ16人(昨年度40人)となっており、昨年度と比較して、大幅に減少していた。 ・年休について、年間の年休取得平均12日以上を目標に掲げていたが、11.5日とわずかに目標には及ばなかった。しかし、国民スポーツ大会業務等で、休暇取得が難しい状況であったことを鑑みると、目標達成に等しい結果である。 ・来年度は、組織運営体制の見直し、行事の精選および削減を進めたい。また、学校が担うべき業務と担わなくてもよい業務、学校が担う必要がない業務、地域等のサポートにより教職員が担わなくても可能となる業務などを探り出した。さらに、本年度以上にICT活用による業務の効率化や、時間外在校等時間削減を目指したい。	管理職	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の意識の向上	○特別支援教育に関する意識が向上したと回答した教員60%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	A	・特別支援教育委員会を定期的に実施することにより、関係者間での情報共有や支援生徒への働きかけが充実した。特に個別に支援を必要とする生徒についてはケース会議を実施し、その後、全職員での情報共有を行い、全職員で連携を取りながら支援を行った。これらの取り組みにより、特別支援教育の充実と特別支援教育に関する教員の意識が向上したと考えられる。 ・9月に実施した特別支援教育に関する校内研修後のアンケートの結果、参加した全ての教員が「特別支援に関する意識が向上した」と回答した。	保健主事 特別支援コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						最終評価	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果		
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★学校運営協議会の実践的な展開	★校内委員会を年度当初に開催し校内組織体制を整える。 ★コンソーシアムの運営規約の策定ができている。 ★令和7年度のプロジェクトの計画が立っている。	・校内組織委員会を開催し学校魅力強化委員会との連携を図る。 ・学校魅力強化委員会を年6回開催し、学校のプロジェクト実施に向けて協議するために、コンソーシアム的な働きを持つものに移行させる。	A	・魅力強化委員会(学校運営協議会)を6回開催し、魅力強化委員会を中心にプロジェクトの実施に向けて協議を行った。 ・来年度以降の魅力強化の実施計画について議論を行い、計画を立てることができた。	主幹教諭	
	◎★地域と連携した教育プログラムの魅力化	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合85%以上、教職員の割合90%以上 ★アンケートの「主体性に関わるウェルビーイング」に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合65%以上、『社会性に関わる自己認識』に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合65%以上 ★次年度より評価に利用する「育てたい力」を測るルーブリックの完成	・カリキュラムポリシーに基づいたカリキュラムをカリキュラム委員会で検討する。 ・「育てたい力」のルーブリックを作成する。 ・課題研究や起業家入門などの授業と地域をつなぎ生徒たちの活動を深化させる。 ・地域連携講座を実施し、起業家入門Ⅰの地域課題解決につながる流れを作る。 ・家庭クラブを中心に、夢つむぎネットワークと協働して牛尾山の活性化に取組み、2月末の梅まつりで各科の成果を示す。 ・ボランティア・スピリッツ・アワードへ応募する。	A	・「自分の学校を中学生に勧めることができる」と答えた生徒の割合は7月時点では85.9%と目標を超えていたが、1月調査では少し減少し81.1%であった。教職員の割合は91.7%で成果指標をほぼ達成することができた。 ・「主体性に関わるウェルビーイング」に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合7月調査よりも、4.3%増加の68.0%であった。『社会性に関わる自己認識』に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合は7月よりも1.0%減の61.6%であった。 ・学校設定科目である「起業家入門」や「課題研究」において、地域と連携した活動を推進することができた。 ・「育てたい力」を測るルーブリックについては、作成に向けて次年度も継続して検討していく。	主幹教諭 家庭科主任 生徒指導主事	
	★選ばれる学校に向けた県内外への情報発信	★志願者数を令和6年度選抜より10%増やす。 ★県外からの令和7年度入学者数を2名以上にする。	・学校紹介の動画を作成し、学校PRの資料を充実させる。 ・体験活動・地域連携活動を充実させ、中学生に情報発信を行う。 ・近隣の小中学校で生徒による家庭科の出前授業、授業補助を実施する。 ・全国募集に向けての準備として下宿先の確保に向けて動く。 ・食品調理科の授業の集団給食で外部の人に来てもらう機会をつくる。	・学校紹介の動画を作成し、学校PRの資料を充実させる。 ・体験活動・地域連携活動を充実させ、中学生に情報発信を行う。 ・近隣の小中学校で生徒による家庭科の出前授業、授業補助を実施する。 ・全国募集に向けての準備として下宿先の確保に向けて動く。 ・食品調理科の授業の集団給食で外部の人に来てもらう機会をつくる。	B	・学校PR動画の作成、Instagramでの情報発信を行った。また、連携協定を結んでいる小城市により、動画配信やホームページでの情報発信をしていただいた。 ・小中学校への授業サポートや出前授業をおとして地域に学校の魅力を発信することができた。 ・県内外への説明会や学校訪問を行い、積極的な募集活動を展開したが、県外からの受検者は1名、志願者数は昨年度より減少し、成果指標を達成できていない。	主幹教諭 教務主任

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・ 次年度への展望	・「専門教科(家庭科)の知識・技能が身につけている」と肯定的に答えた生徒は91.1%で、年間を通して実習や検定等に取り組んだ結果が出ている。高い就職内定率や進学実績にも表れている。 ・達成度が低かった学力の向上は、「基礎力診断テスト」の結果を詳細に分析し、課題点を教員間で共有し、分析結果から授業内容や指導方法を改善していく。さらに、家庭学習の重要性を生徒に理解させ、効果的な学習習慣を確立するための支援を行いたい。 ・唯一無二の誇り高き学校づくりに向け、学校魅力強化委員会(学校運営協議会)を中心に様々な意見交換を行った。次年度は、現在取り組んでいる地域連携活動を、生徒が主体的に活動できるように内容の検討や支援体制を整えたい。また、生徒募集活動の強化として、PR動画を使った学校説明、学校紹介パンフレットや募集チラシの作成など広報活動を充実させたい。
--------------------	---